

ふれあい新聞

(13号) 1990年1月1日 (田中野田町内会)

'90 あけましておめでとうございます

平成2年

新春



田中野田町内会会長 中尾佐之吉

年の経つのは早いものです。昭和の時代が終って平成の時代を迎えましたが、ことしは西暦で言えば1990年、つまり90年代に突入したのです。いよいよ21世紀が近くなってきたなと思うわけです。これからの10年、世界も、日本も、岡山市も大きく変わっていくことになるでしょう。時代におくれないよう、世界の動きにも注目しながら、しかも、脚下を見つめ、お互い皆んなの幸せをめざして、ひと足ひと足確実に歩いていきたいものです。

この一年皆さまの健康とご多幸をお祈りします。

《わが郷土を語る》 (その11)

中尾佐之吉

田中野田に電灯がついた日

私が、まだ幼かった頃である。それは秋であったと思う。日暮れ時になり、母親につれられて田んぼから家に帰ると、電灯に明りがついているのである。しかも、部屋の中がずいぶん明るくなって、大変うれしかった思い出がかすかに残っている。

それまでは、この地方ではどこの家も灯油をもやして明りをとるランプだったのである。当時、農繁期には両親のいる田んぼに連れていかれていたが、ランプの時代には、晩になって家に帰ってもまっくら闇、母親が、まづは前夜煤に汚れたままのランプのホヤを掃除して油を足して、やっと明りがつくのである。しかもランプの灯は、電灯の明るさにとっても及ばないのは当然である。その電灯とて最初は私の家では2灯だけで、しかも1灯が10燭光である。現在のワットの明るさで言えば5ワットだそうである。それでも、当時はとても明るく感じた。今はどの家もそうであるが、私のうちでも電灯の数は18個、しかも、昔のタングステン電球も今はなく、蛍光管に輝いているのである。

田中野田に初めて電灯がついたのは大正9年である。(和氣督祐さんのお話)岡山市に電灯会社ができたのは明治26年と、ものの本に書いてあるから、それに比べれば早い時期とは言えないが、それでも、「電灯がついた日」

とは、この地区に「文明の灯りがついた日」と云えるのではなからうか。それからおよそ70年、今日の充実した電化生活を誰が予想したであろうか。昔の不便で苦しかった生活に堪えて、黙々と働いてきた先人の努力を偲ぶと共に、暖房から炊事・そうじ・せんたくまで限り無く電気のお蔭をうける、恵まれた今の生活をありがたく思うのである。

《田中野田と周辺のことしの課題あれこれ》

1. まず学校問題であろう。
懸案の西小分離校の用地の確保のめどがなかったので、平成2年には、新設校の学区編成が大きな課題となろう。
2. 笹ヶ瀬川へ新しい橋がかけられる。
新設校と関連して笹ヶ瀬川へ新たに車も通れる橋をかけることである。
その位置は田中野田の県道にかかっている「新橋」の北の信号から真直に西へ行き笹ヶ瀬川に突当たったところが予定されている。
3. 区画道路にガス管の埋設も始まる。
区画整理でできた道路に下水管の埋設が始まっているが、さらにその後、今年から都市ガスのガス管の埋設が行われる。そしてこのあと舗装が行われる筈である。
4. 50米道路の基本設計もできる。
田中野田を南北に通る予定の国道180号線岡山西バイパスについて用地の測量が行われているが、さらに基本設計ができることになろう。

◎公園の愛称募集!!

田中野田の区画整理で三つの公園ができる。この公園は市の所管であり、今後逐次整備されていく。しかしその管理は地元にかませられるので、愛護委員会をつくらねばならない筈である。

ところでこの公園にはまだ名前がついていない。簡単には、田中野田西公園、東公園、南公園とつけられようが、適切な名前をつけてほしいと市公園課の話である。皆さんでいい名前を考えていただきたい。

◎和氣孚輔(督祐)さん民生委員再任

民生委員(児童委員)はことしが改選期であったが、現在民生委員をしておられる和氣孚輔(督祐)さんが12月1日付けで再任されました。これから3年間さらに当地を担当してくださることになります。



『新年のご挨拶』

田中野田婦人会長 和氣 貴代

新年明けましてお目度とう御座います
旧年中は婦人会活動諸行事に、御協力を賜りまして、誠に有難う御座いました。夏祭りのオムスピの販売、一円募金、古紙の回収、回覧販売、等々……

又二月下旬には、新役員の選出が行われます。残り少ない任期では御座いますが、今後とも御理解と御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

民生委員 和氣 督祐

明けましてお目度うございます。
新年を迎えて、町内皆さんのご多幸を心からお祈りいたします。
さて平成元年12月1日、全国民生委員の一斉改選が行われ、不肖私も含めて西学区では19名の委員が委嘱されました。引き続きよろしくお願い申し上げます。

ご承知の通り人生80年時代、高齢化長寿社会を迎えて、これからの地域福祉活動は、町内皆さんと共にお互いに助け合い支え合っていく福祉活動が大切であり、行政と地域住民が、一体となっていく時代であると思っております。

今後一層のご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

田中野田老人会 会長 和氣 庸夫

平成2年の新春を迎えお目度うございます。昔より人生50年と言われて参りましたが、現在は高齢化が進み、80年と寿命が30年も伸び、60才の定年制は無理で今は若者といえる様ですが、財宝や健康に恵まれた人も、一様に越えねばならぬ人生峠の節目です。7、80才の老人も家に閉じこもることなく、若い人達の力も借りて、寝たきりの方、一人暮らしの方の友愛訪問、文化レジャーにスポーツ、三世代との交流、公会堂公園等を日常の集合場所に使用させて戴き、地域社会に貢献せねばなりません。厚生、自治両省なども、シルバー対策を重視され、予算も大巾に増額される様子です。

ギブ・アンド・テイク(先ず与えよ、然らば報いられる)有名な格言に則り、大和民族の誇りである犠牲的精神を発揮されて、定年に成られる若い人は奮い立って「クラブ」に入会して新風を吹込んで下さい。お願いします。

